



平成31年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成30年8月10日

上場会社名 株式会社ソケット 上場取引所 東  
 コード番号 3634 URL <http://www.sockets.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 浦部 浩司  
 問合せ先責任者 (役職名) コーポレートマネジメント室室長 (氏名) 西城 淳二 TEL 03-5785-5518  
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月13日 配当支払開始予定日—  
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 有「平成31年3月期第1四半期決算補足資料」を同日付けで公表しております。  
 四半期決算説明会開催の有無: 有(機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の業績(平成30年4月1日～平成30年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	329	△7.2	△39	—	△39	—	△40	—
30年3月期第1四半期	355	△13.9	△4	—	△4	—	△5	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	△16.42	—
30年3月期第1四半期	△2.15	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第1四半期	1,159	944	77.8
30年3月期	1,236	980	76.0

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 901百万円 30年3月期 939百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
31年3月期	—				
31年3月期(予想)		0.00	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 平成31年3月期の業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,600	△0.3	50	△27.1	48	△29.2	45	△30.1	18.41

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※当社は年次で業績管理を行っているため、第2四半期累計期間の業績予想は行っておりません。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	31年3月期1Q	2,471,200株	30年3月期	2,469,000株
② 期末自己株式数	31年3月期1Q	24,583株	30年3月期	24,583株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	31年3月期1Q	2,444,562株	30年3月期1Q	2,436,457株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・当資料に記載している業績見通し等の将来に関する予測は、本資料の発表日現在において当社が入手可能な情報及び、合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想の利用については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・四半期決算説明補足資料はT D n e t で同日開示しています。
- ・当社は平成30年8月17日 (金) に機関投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する資料については、開催後速やかに当社ウェブサイトで掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第1四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(追加情報) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第 1 四半期累計期間におけるわが国経済は、底堅い内外需を背景とした継続的かつ緩やかな上向き基調である一方、引き続き、米国、中国間における貿易摩擦など不安定な国際情勢に端を発する海外発の景気下振れリスクにより依然として先行きが不透明な状況にもあります。

このような経済環境の中、インターネットサービスを取り巻く環境は 5 G など次世代通信網の高速化、インターネットサービスに接続される端末数の増加やセンサー技術の発達、また人工知能 (A I) に代表される人と機械の新たなコミュニケーション手段の進展がより一層進むことが予想されます。またその環境下で様々な履歴 (ログ) や、大量の情報、コンテンツなどのデータがインターネット上で保管、流通される状況がさらに進みます。それらの新しいネットワーク、テクノロジー、データの有効な利活用において、新たな産業構造が生まれる可能性が生まれています。

そのなかで、あらゆるコンテンツ (音楽・映像・書籍・テレビ・イベントなど) 体験の機会においても、緩やかにかつ確実な変化が起きております。それらの変化は、コンテンツ関連市場の飛躍的な活性化を生み、大きな事業機会となる可能性がますます高まっています。

またインターネットにつながるデバイスが、家電、テレビ、自動車など生活に密着した機器にまで広がる I o T (Internet of Things) と大量データを自律的に学習する A I の普及、データ解析や予測技術の進展、これらを通じて新たな価値を生み出すデータベース関連サービスの事業機会の増加が予想されます。またスマートフォン時代の次にくる「ポストスマートフォン」「スマートデバイス」においては、画面を伴わないコミュニケーション、つまり人と機械がより自然に会話し、情報のみならず感情までもやりとりする対話型インターネットサービスの進展も予想されます。

このような環境のもと、当社は「データベース・サービスカンパニー」として、『人の想像力をつなぐ』ことをミッションに、コンテンツに紐づく情報をデータベース化したオリジナルのメディアサービスデータベース (以下「MSDB」といいます) を開発し、通信会社およびインターネットサービス会社を対象に、データ提供、検索機能提供、推薦 (レコメンド・パーソナライズ) 機能提供、データ分析などの多様なデータベース関連サービスの開発および提供を行っております。

当社の強みは、人間が持つ感情や感性を体系的、網羅的、詳細にデータベース化を行い、国内最大級のエンターテインメント系のデータベースである MSDB として自社開発、運用していること、およびそれらで蓄積した「感性データ」を活用したデータ分析や A I を例とするデータ活用応用技術にあります。

MSDB で培った「感情を科学する技術」を発展させ、一般商材、施設情報、放送情報、イベントなどにデータ開発の領域が広がり、エンターテインメントから始まりあらゆる分野の感性データを連携するオリジナル各種マーケティングサービスが提供可能となりつつあります。

具体的には、音楽・映像・書籍・一般商材などの「専門検索サービス」、それらが感情という軸でつながりをもった「クロスカテゴリー検索サービス」、「レコメンド (おすすめ紹介) サービス」、サービス利用者の一人ひとりの嗜好性を分析し、サービス利用者の好みにあわせた情報を提供する「パーソナライズサービス」、当社独自データを利活用した「アナリティクス (分析) サービス」を展開しております。

これらのサービスについては、ユーザーベースをもつパートナー企業への技術ライセンス提供として、KDD I 株式会社、株式会社レコチョクを通じた株式会社 N T T ドコモ、ヤフー株式会社、楽天株式会社、L I N E M U S I C 株式会社などのサービスにて利用されております。

また独自に開発した「感性 A I」を活用した「人の感情、感性を理解するテクノロジー」に関する特定パートナー企業との実証実験、プロトタイプ開発も引き続き進捗しております。

これらの事業活動の結果、前年同期には無かった新規データライセンス事業が増加する一方で、研究開発費を中心とした販売管理費の増加、通信会社向け事業の内容見直しなどによる影響もあり、当第 1 四半期累計期間の経営成績は、売上高 329,743 千円 (前年同期比 92.8%)、営業損失 39,525 千円 (前年同期は 4,597 千円の営業損失)、経常損失 39,657 千円 (前年同期は 4,655 千円の経常損失)、四半期純損失 40,144 千円 (前年同期は 5,228 千円の四半期純損失) となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前事業年度末の数値で比較を行っております。

当第1四半期会計期間末における総資産は、1,159,674千円(前事業年度末比76,931千円減)となりました。流動資産につきましては829,046千円(同50,158千円減)となりました。増減の主な要因として、流動資産につきましては売上債権の回収による現金及び預金の増加(同53,155千円増)および売掛金の減少(同122,258千円減)があります。固定資産につきましては、減価償却によるソフトウェアの減少(同25,942千円減)などにより、330,627千円(同26,772千円減)となりました。

負債は、215,517千円(同40,647千円減)となりました。増減の主な要因としましては、開発案件に係る外注費などの買掛金の減少(同13,464千円減)、賞与支給による賞与引当金の減少(同24,270千円減)があったことによります。

以上の結果、純資産は、944,156千円(同36,283千円減)となり、自己資本比率は、前事業年度末の76.0%から77.8%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期の個別業績見通しは、以下のとおりであります。直近に公表されている業績予想からの修正はありません。

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,600	△0.3	50	△27.1	48	△29.2	45	△30.1	18.41

(注) %表示は対前年増減比になります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成30年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	572,787	625,943
売掛金	281,003	158,744
仕掛品	—	3,580
その他	25,682	41,009
貸倒引当金	△268	△230
流動資産合計	879,205	829,046
固定資産		
有形固定資産	23,885	23,305
無形固定資産		
ソフトウェア	131,372	105,430
ソフトウェア仮勘定	1,936	1,936
その他	72	72
無形固定資産合計	133,381	107,439
投資その他の資産		
その他	201,100	200,850
貸倒引当金	△967	△967
投資その他の資産合計	200,132	199,882
固定資産合計	357,400	330,627
資産合計	1,236,605	1,159,674
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	63,051	49,587
未払金	18,692	10,074
未払法人税等	19,159	2,923
賞与引当金	47,343	23,073
役員賞与引当金	7,095	—
その他	39,526	61,946
流動負債合計	194,867	147,605
固定負債		
退職給付引当金	59,961	66,736
その他	1,336	1,176
固定負債合計	61,298	67,912
負債合計	256,165	215,517
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	501,212	502,491
資本剰余金		
資本準備金	399,612	400,891
資本剰余金合計	399,612	400,891
利益剰余金		
利益準備金	4,295	4,295
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	66,254	26,110
利益剰余金合計	70,549	30,405
自己株式	△32,009	△32,009
株主資本合計	939,363	901,777
新株予約権	41,076	42,378
純資産合計	980,439	944,156
負債純資産合計	1,236,605	1,159,674

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)
売上高	355,197	329,743
売上原価	229,787	220,123
売上総利益	125,409	109,619
販売費及び一般管理費	130,007	149,145
営業損失(△)	△4,597	△39,525
営業外収益		
受取配当金	570	420
その他	64	76
営業外収益合計	634	496
営業外費用		
支払利息	239	—
為替差損	314	604
その他	138	23
営業外費用合計	692	628
経常損失(△)	△4,655	△39,657
税引前四半期純損失(△)	△4,655	△39,657
法人税、住民税及び事業税	572	486
法人税等合計	572	486
四半期純損失(△)	△5,228	△40,144

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。